

平成17年4月の解説（府県天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、3日前後の間隔で、低気圧が日本付近を通過してほぼ全国的に雨が降りました。これらの低気圧が通過した後に一時的に冬型の気圧配置となり、北日本では一部で雪となりました。その後は、低気圧が北に偏ったコースを通過することが多くなり、北日本ではしばしば雨が降りました。その反面、東日本から西日本では移動性高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。このため、月を通しては北日本を除いて晴れの日が多く、月降水量では、西日本で平年の40%未満のところが多くなり、日照時間では、東日本から西日本にかけて平年の120%以上のところが多くなりました。気温は、西日本で平年を1℃上回ったところが多くなりました。

【4月の検証結果】

17時発表「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報では84%で例年^(注)と同程度、明後日予報では83%で例年より3ポイント高くなりました。地域毎の適中率は、明日予報では北日本、北陸、東海及び四国地方では1から3ポイント低くなりましたが、関東甲信地方では4ポイント高くなりました。明後日予報では北海道地方で4ポイント、東海地方で6ポイント低くなりましたが、その他は概ね高く、特に四国地方では9ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より小さく、全国平均では例年より0.2℃小さい1.9℃でした。最低気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年並で、全国平均では例年より0.1℃小さい1.6℃でした。

(注) 例年値は気象庁HP（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の天気予報から】

— 背の低い雲によるくもり（2日の東京地方の予報から） —

2日午前9時の気象衛星可視画像（図1。肉眼で見える雲イメージの画像）によると、関東地方の東海上から陸上沿岸部にかけて雲が広がっています。この雲は、上面の高さが約1000メートルという低いもので、下層の東よりの風に流されて内陸まで入ってきたものと思われます。アメダスの前1時間の日照時間分布図（図2）で見ると、この雲に覆われた関東地方のほぼ東半分では、前1時間の日照時間が0.2時間未満で曇っていますが、西半分では同時間が0.8時間以上と晴れています。東京地方では東京23区付近がその雲域の西端となっており、点線で囲んだ多摩地方では晴れ

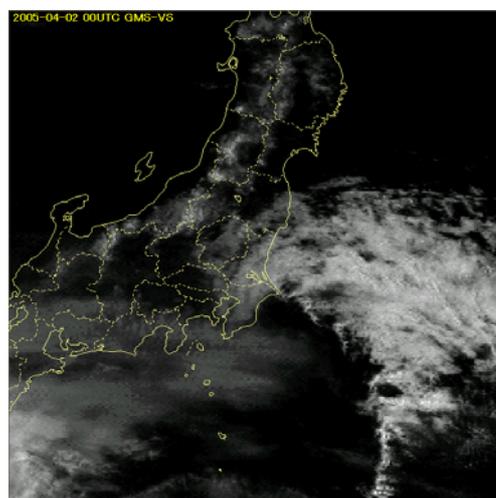


図1. 2日9時の気象衛星可視画像

